

明石原人説と西八木海岸 ～明石人骨をめぐって～

明石市立文化博物館展示

『発掘された明石の至宝』(2019年11月 発掘された明石の歴史展実行委員会発行)の中に、「明石人骨(西八木海岸)」として、次のような記述があります。

1931年4月に直良信夫さんが屏風ヶ浦海岸の崖下の崩土から発見した人骨片(寛骨)で、高さ17.3cm、直良さんは化石であったと主張しています。1945年5月の東京大空襲で焼失し、現存しません。戦後、長谷部言人さんは、のこされていたレプリカを研究してジャワ原人や北京原人に匹敵する原人の骨と認め、ニッポナントロプス・アカシエンシスと命名、以後、「明石原人」と呼ばれるようになりました。現在では「現代人」説が有力ですが、論争の長い歴史があり、辞典類や高校教科書にのっているほど著名な「明石人」です。(春成)

この解説を書いた春成秀爾国立歴史民俗博物館名誉教授は、「明石原人」の腰骨の発見地の発掘調査を1985年(昭和60)に行いました。その発掘調査では骨化石は発見されませんでした。明石市教育委員会案内板によると、6～12万年前の木器や石器出土があり、「現在のところ(平成12年9月)、近畿地方でもっとも古い人類の遺跡の一つである」とされています。

1985年の発掘調査について、『発掘された明石の至宝』の中で、春成氏は、「第二の明石人骨発見を夢見て、1985年に私も西八木海岸の発掘をおこないました。しかし、問題の西八木層からは骨化石は1点も見出すことができず、pH分析の結果も前回(1948年長谷部言人ら発掘調査:弱酸性～強酸性)と同様でした。しかし、木材は多数のこっており、その中から人工品と推定されるハリグワの板片を発見しました。さらに、私たちの発掘以前にすぐ近くの西八木層から碧玉の剥片が採集されていた事実を知りました。そこで、明石人骨の問題は保留のまま、西八木層の時代、おそらく5、6万年前に付近に人類が生息していたことは確実であると私は考えました。人類学者の意見では、現在は「明石人骨」は99%現代人の骨ということになっています」と記載しています。

明石人骨が失われず実物が残ってさえいれば、今では年代測定して簡単に解決できますが、実物がないため、長きにわたって論争が続きました。『岩波日本史辞典』には、「石膏模型を研究した長谷部言人は北京原人に近い化石だと考え、1948年に明石原人と命名。後になって長谷部の原人説は否定され、現生人と共通する形態的特徴が指摘された。一方、寛骨が出たといわれる層位を1985年に発掘調査した春成秀爾らは、同層位が旧人の時代に相当することを明らかにし、木製品の破片を発掘した。しかし明石寛骨が、その層位から出たか、その木製品と同時代かは不明。」とあります。

〇「明石人骨」の発見者 直良信夫(なおり のぶお)(1902～85)

『ビジュアルブックス 時代のパイオニアたち』(2003年 神戸新聞総合出版センター発行)に直良信夫についての紹介があります。

大分県北海部郡臼杵村(現在の臼杵市)の村木家で生まれる。病氣療養で訪れた姫路でかつての恩師・直良音と結婚、養子に入る。明石・大蔵谷に転居して考古学の本格的な研究を進める。学閥のなかで翻弄されながら神戸・大蔵山の縄文遺跡など数多くの遺跡を発見、調査し、昭和35年(1960)に早稲田大学教授になる。著書は「日本旧石器時代の研究」などおびただしい。晩年は出雲市に移り、ここで波乱の生涯を閉じた。

直良信夫が明石に来たのは、大正14年(1925)4月のことである。明石が病気の療養に適しているということもあったが、何よりもその頃、兵庫県ではじめての縄文遺跡・大蔵山遺跡(神戸市垂水区舞子台)が発見され、この研究に挑戦したかったからであるといわれる。遺跡に近い明石市大蔵谷の高台に住居を構え、せきを切ったように考古学の研究に打ち込み、「直良石器時代文化研究所」を設立したのも、この頃のことである。そんななかで播磨の各地で数多くの遺跡を発見した。

昭和6年(1931年)4月18日、直良信夫は何時ものように家を出て西に向かった。明石の海岸の洪積世の地層からは、さまざまな化石などが発見されており、海岸を歩くのは日課であった。この日は、前夜までの強風もやんで、おだやかな日であった。明石川を渡り、西八木海岸まで来たとき、浸食谷からすこし行ったところに崩れた土が山になっているところがあった。その土のなから、今まで見たこともないものが、わずかに顔を出しているのに気が付いた。急いでハンドスコップで掘り起こす。「まさか」信夫は、土だらけの手で眼をこすった。人間の腰の骨であった。発見から半月後の5月3日、大阪朝日新聞が「三、四十万年前の人体の骨盤現る 日本では最初の発見」と大々的に報じた。悲劇の幕開けともいえるものであった。...



「明石原人」の発見



右上
当時の人骨
発見場所(明石
市立文化博物
館展示資料)
右・右下
1985年の発
掘調査場所



【参考】
松本清張の『石の骨』は直良信夫をモデルにした小説です。